

第1回 熊本市河川整備計画策定委員会

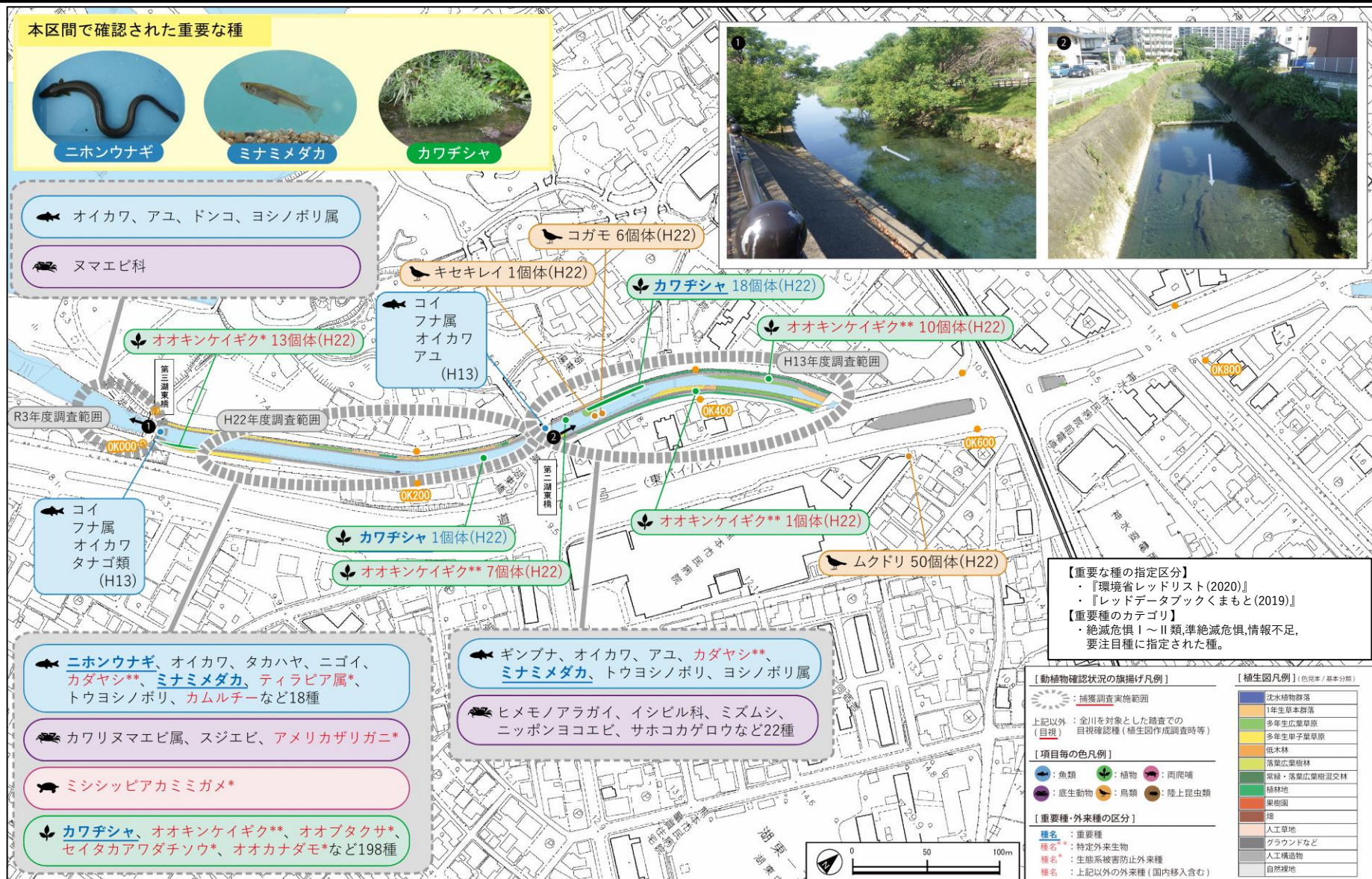
健軍川、藻器堀川の河川環境について

令和3年11月
都市建設局 土木部 河川課

I 健軍川の河川環境

(1) 0k000～0k900区間

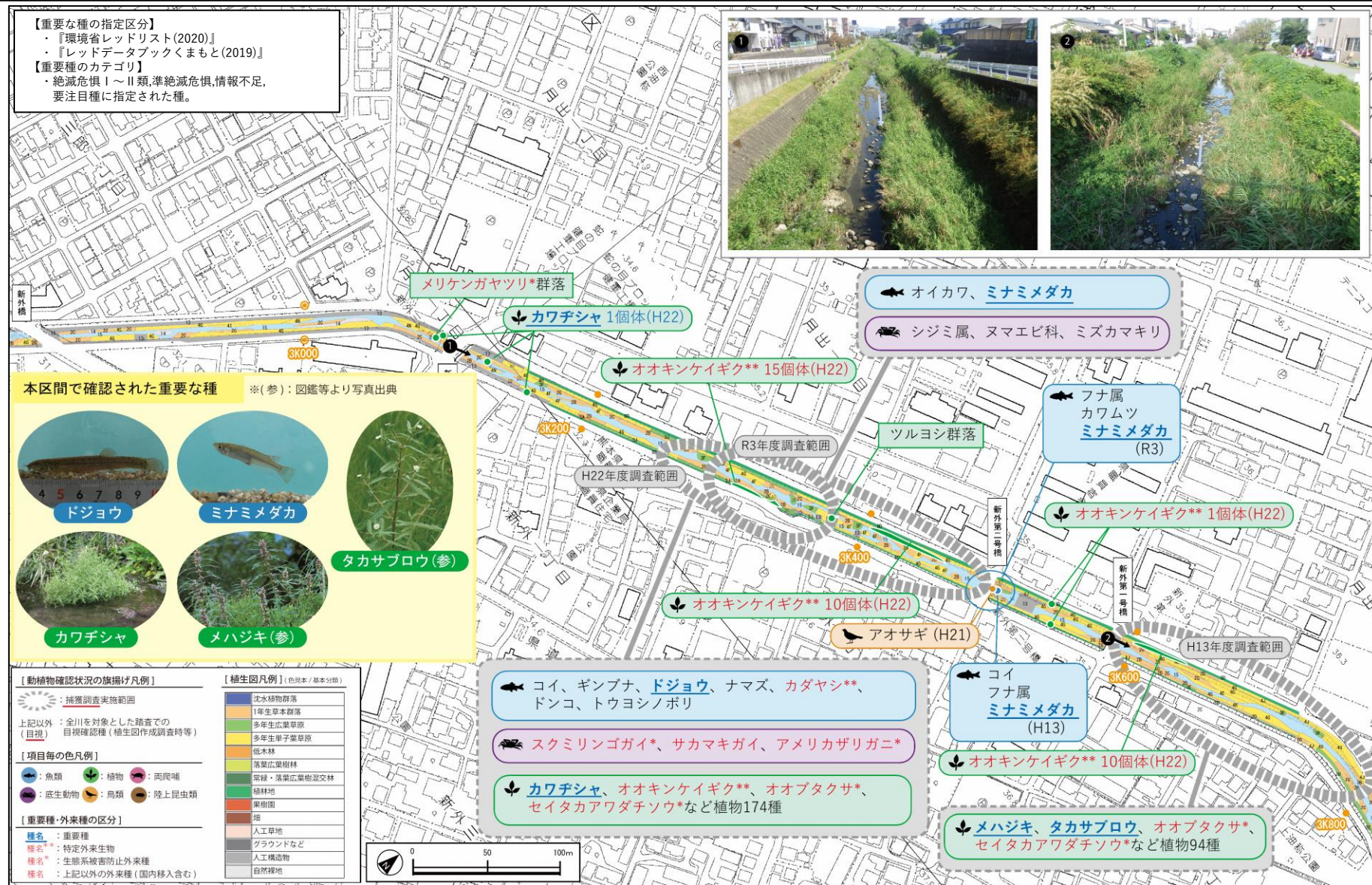
○重要な水生生物として、ニホンウナギ、ミナミメダカ、水辺の植生として、カワヂシャを確認。



I 健軍川の河川環境

(2) 2k800～3k900区間

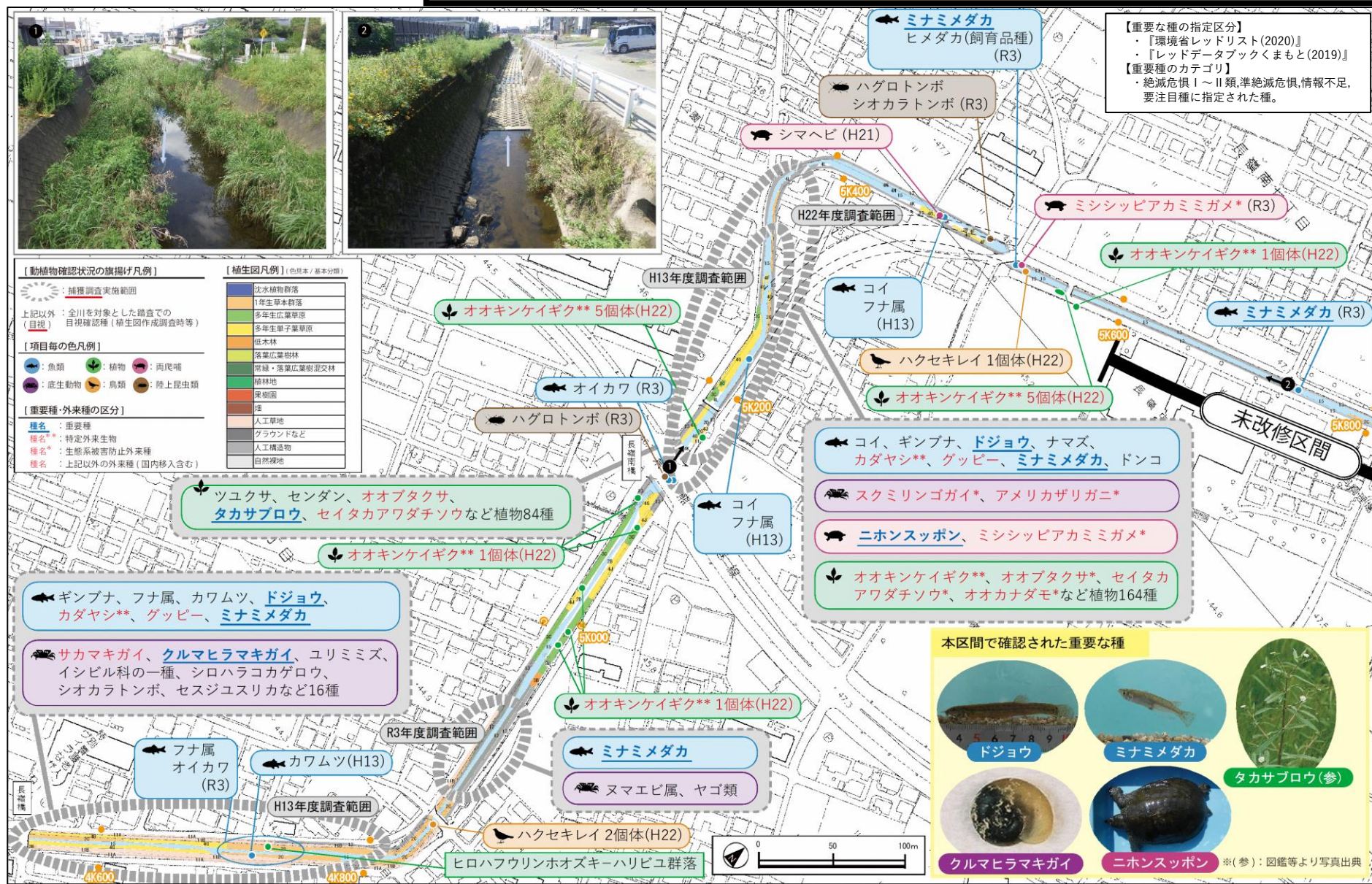
○重要な水生生物として、ドジョウ、ミナメダカ、水辺の植生として、カワヂシャ、メハジキ等を確認。



I 健軍川の河川環境

(3) 4k600～5k800区間

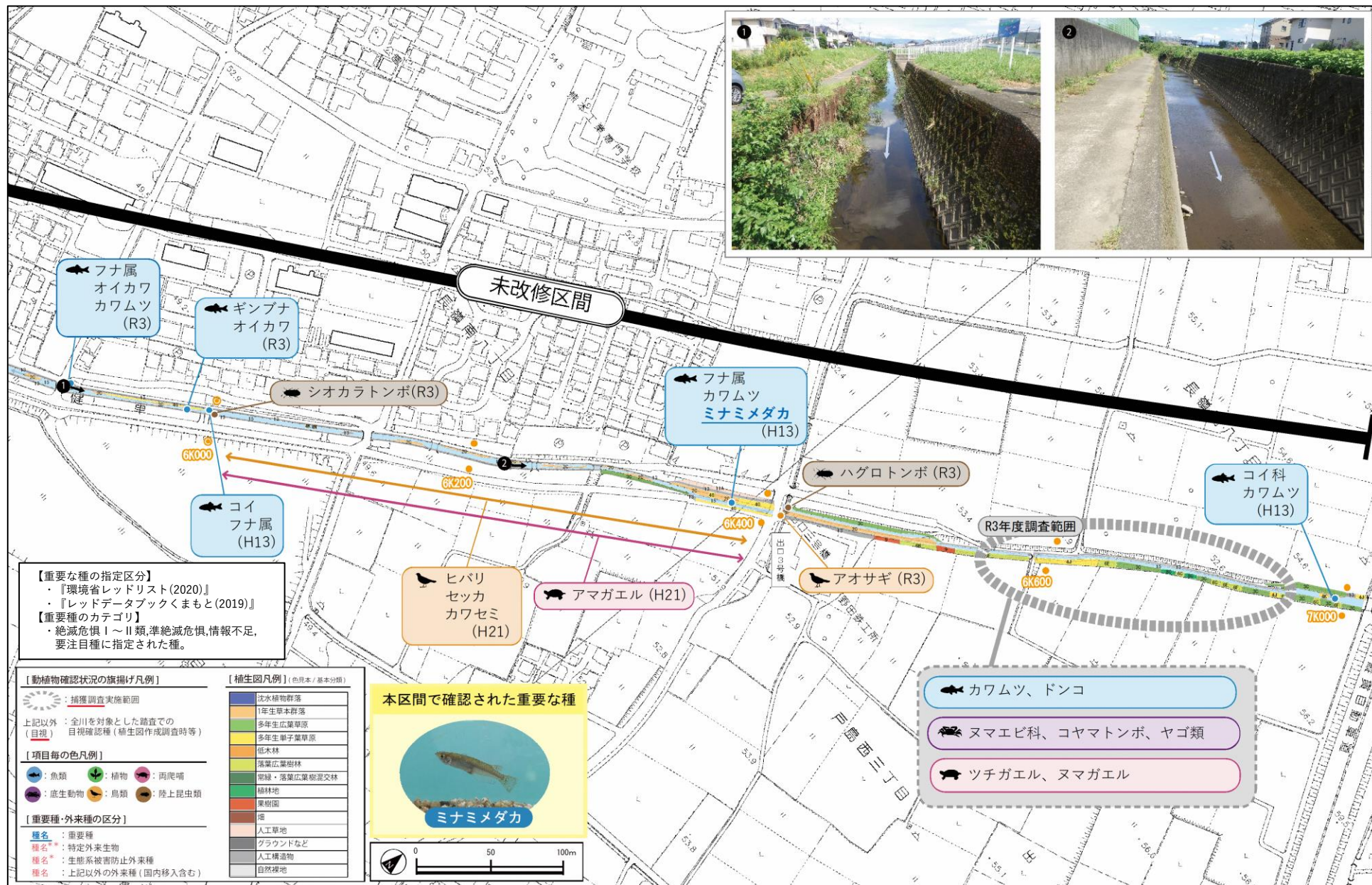
○重要な水生生物として、ドジョウ、ミナミメダカ、クルマヒラマキガイ、ニホンスッポン、水辺の植生として、タカサブロウを確認。



I 健軍川の河川環境

(4) 4k600～5k800区間

○重要な水生生物として、ミナミメダカを確認。



I 健軍川の河川環境

(5) まとめ

○水生生物として、ドジョウ、ミナメダカ、ニホンスッポン、
水辺の植生として、カワヂシャなどが確認されている。

○水生生物や水辺の植生に配慮し、現況河床やみお筋を保全。極力片岸拡幅とし、現況河岸を存置。
○沿川は住宅や農地であり、護岸ブロックの明度を下げる等、周辺の景観との調和を図る。

①重要な種

水生生物



▲ドジョウ



▲ミナメダカ



▲ニホンスッポン

植生



▲カワヂシャ



▲メハジキ



▲タカサブロウ

景観



▲沿川の土地利用①(住宅地)



▲沿川の土地利用②(長嶺中学校)

②未改修区間の現状



▲護岸の状況



▲河床の状況

③改修方針

【河岸の保全】

地形条件によっては、片岸拡幅とすることで河岸の自然環境への影響を軽減する。

【周辺景観との調和】

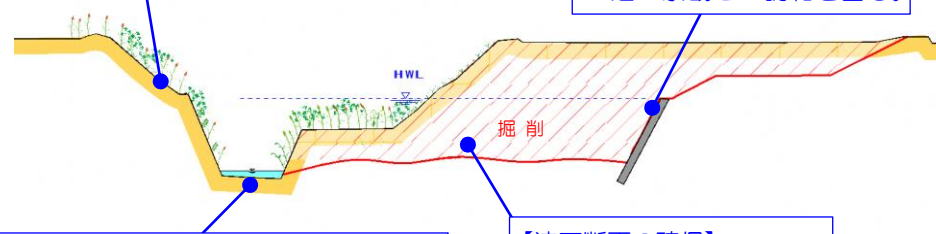
護岸ブロックについては明度を下げることで、周辺の景観との調和を図る。

【水辺の保全】

現況の河道を可能な限り維持することで、水辺の生物や植生を保全する。

【流下断面の確保】

狭小な河道を拡幅することで流下断面を確保し、洪水を安全に流下させる。



(1) 0k000~1k200区間

【重要な種の指定区分】

- ・『環境省レッドリスト(2020)』
- ・『レッドデータブックくまもと(2019)』

【重要種のカテゴリ】

- ・絶滅危惧Ⅰ～Ⅱ類,準絶滅危惧,情報不足,要注目種に指定された種。



Ⅱ 藻器堀川の河川環境

(2) 2k200～3k100区間

○重要な水生生物として、ドジョウ、ニホンスッポン、モノアラガイ、水辺の植生として、カワデシヤを確認。



II 藻器堀川の河川環境

(3) 0k000～1k200区間(保田窪放水路)、3k100～3k600区間(藻器堀川)

○重要な水生生物として、ドジョウ、ミナミメダカ、ニホンスッポン、モノアラガイ、クルマヒラマキガイ、コオイムシを確認。



藻器堀川の河川環境

(4) 4k600～5k400区間

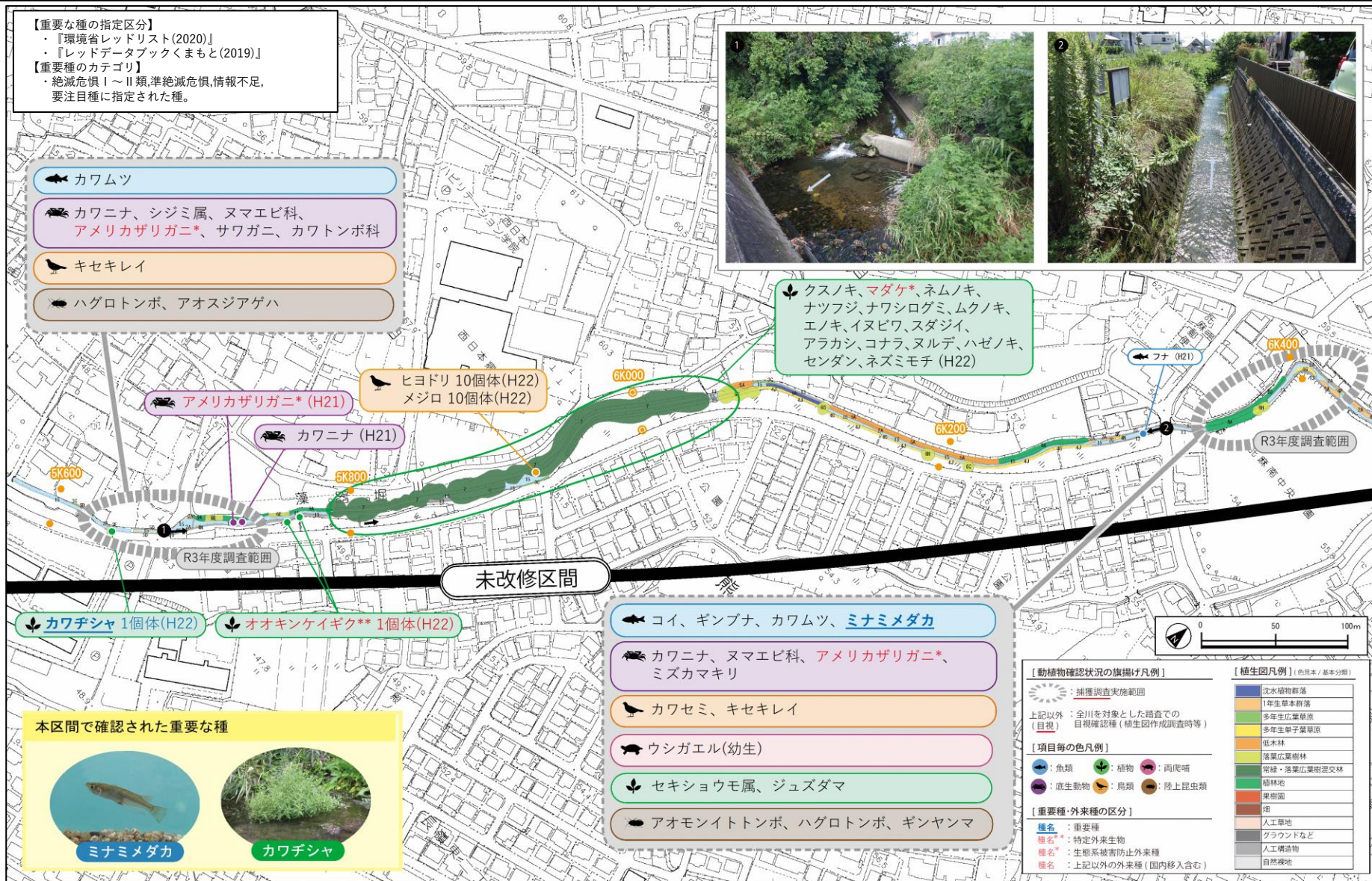
○重要な水生生物として、ドジョウ、ミナミメダカ、ニホンスッポン、モノアラガイ、クルマヒラマキガイ、水辺の植生として、カワヂシャ、ミゾコウジュを確認。



II 藻器堀川の河川環境

(5) 5k500～6k400区間

○重要な水生生物として、ミナミメダカ、水辺の植生として、カワヂシャを確認。



II 藻器堀川の河川環境

(6) まとめ

○水生生物として、ドジョウ、モノアラガイ、クルマヒラマキガイ、ニホンスッポン、水辺の植生として、ヒラモ、カワヂシャなどが確認されている。

○水生生物や水辺の植生に配慮し、現況河床やみお筋を保全。極力片岸拡幅とし、現況河岸を存置。

○沿川は住宅や農地であり、護岸ブロックの明度を下げる等、周辺の景観との調和を図る。

①重要な種

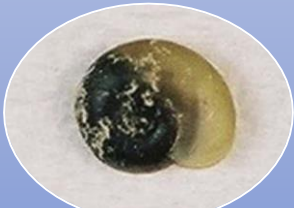
水生生物



▲ドジョウ



▲モノアラガイ



▲クルマヒラマキガイ

植生



▲ヒラモ



▲カワヂシャ



▲ミゾコウシュ

景観



▲沿川の土地利用①(住宅地)



▲沿川の土地利用②(住宅地)

②未改修区間の現状



▲護岸の状況



▲河床の状況

③改修方針

【周辺景観との調和】
護岸ブロックについては
明度を下げることで、周
辺の景観との調和を図る。

【河岸の保全】
地形条件によっては
河畔林を残すなど、
河岸の自然環境への
影響を軽減する。

【流下断面の確保】
狭小な河道を拡幅することで流下断面
を確保し、洪水を安全に流下させる。

【水辺の保全】
現地発生 of 石を再利用し、間
隙のある水辺空間とするなど、
従来の河川環境を保全する。